

# 平成 27 年度教育活動等に対する自己評価と学校評価

平成 28 年 5 月 31 日

学校法人頌徳学園三和幼稚園長 金原 順一

学校法人頌徳学園三和幼稚園学校関係者評価委員長 戸塚 秀之

## 1.幼稚園の教育目標

元気で明るく、伸び伸びした子供

情操豊かな子供

友達と遊べる子供を柱として、よく見て、よく聞いて、よく考える子の育成をする

## 2.本年度の重点目的

- ・教育内容を確認し、登園に即した教育課程の実施を図る


教育内容の見直し、職員との共通理解のもと進める。また指導案を見直し、適切な狙いを定めていく

- ・園内研修の充実と人材育成

絵画では昨年に引き続き分析し、まとめていく

仕事に計画性と効率化を図る。また勤務態度を再確認し、気持ちのよい職員間作りに努める

学校関係者評価委員の意見を下記の通り報告します。

平成 27 年度 三和幼稚園 学校評価委員長 戸塚 秀之 

### 3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意見
保育の計画性	指導計画に沿って、日々の生活におろしていく 子ども達に合っているかを確認しながら、計画を見直していく	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休みに、保育計画や準備を行ってきたことで、毎日の保育が余裕を持って出来た。しかし、全体的にカリキュラムが詰まりすぎて、子どもの様子に合わせて臨機応変に変更しにくい面もある。少し余裕を持ったカリキュラムに見直していく。</li> <li>・子どもが、より意欲的に活動に取り組める導入を考えて、保育することを重視した。今後も、子どもたちがより楽しめる導入や展開を考えていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事や物事を実施するにあたり、プロセスを綿密に構築し、かつ個々の力量にも柔軟に対応し、成功へと導いてくれていることが十分に感じられた。</li> <li>・保育者の誠実な働きは、園の保育方針がしっかりしているからこそだと実感した。しかし、気を張りすぎず、余裕を持って保育して欲しい。</li> </ul>
保育のあり方 幼児への対応	発達段階を理解し、ひとりひとりに合った、関わり、援助をしていく	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何事にも個人差があるので、出来ない子が苦手意識を持たないように、さりげない援助を心掛けた。発達段階に合わせ、子どもの気持ちを代弁したり、選択肢を与えたり、自分で考える機会を持たせたり、成長に繋がる関わり方を心掛けた。</li> <li>・発達段階を理解するために、今年度も引き続き、毎月の分析画の実施と成長記録を残していった。</li> <li>・ペア活動を取り入れ、異年齢との関わりが多くなり、成長に繋がった。来年度は年間を通しもっとペア活動を増やしていきたい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四季を感じられる行事の意味を、保育者が丁寧に話し、幼稚園で楽しく理解してくるので良いと思う。</li> <li>・家庭では、何気なく過ごしがちだが、幼稚園では一人一人を成長へと導いてくれていると感じる。</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・3学期は進級を意識した保育を心掛けた。進級時、環境の変化に戸惑いを感じる子がいるので、担任交代やクラスのメンバーを変えたりと、様々な変化に対応できるようにした。</li> </ul>		
<p>職員の 資質向上 ・ 保護者への 対応</p>	<p>子どもたちの観察、分析力など資質の向上を図り指導に役立てる。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は特に、挨拶に重視して取り組んできた。保育者が手本となれるよう、手を止め、目を見て気持ちの良い挨拶を心掛けた。</li> <li>・各クラスの差が出ないように、カリキュラムに沿って活動内容を統一し、話し合いを密にし、時には担任交代や公開保育で、各クラスの現状や課題を見つけ話し合うようにしてきた。また、教職員としての倫理を守り園児の手本になれるよう心掛けていきたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝、子ども達としっかりと目を合わせて挨拶をしてくれるので、子ども達に人の目を見て話す大切さを実感させることにつながり、自然と身についていくと感じている。</li> <li>・園内での子どもの様子や良い事、気になる事を話してくれたり、手紙をもらったりアドバイスをもらい、保護者としては安心している。</li> <li>・園が力を入れてやっていることや、意図としていることを、もっと保護者に発信して知ってもらえると良い。</li> </ul>
<p>研修と研究</p>	<p>研修で得た知識や情報を職員間で共有し、保育に生かしていく</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達支援に対する研修に年間を通して参加し、支援事業にも繋げられ、個々の発達支援が丁寧に出来た。そして、職員間で伝達し、子どもの様子を共通理解出来た。</li> <li>・代表で参加した研修会後には、研修報告をし、園全体で情報を共有できた。</li> <li>・今後もただ研修に参加して満足せず、園全体で共有し、保育に生かしていくようにしたい。</li> </ul>	B	<p>保護者は若く、子育て経験も浅いため、保護者に対し、講演会以外にも体験型の講習や行事を実施し、保育に関心を高めてもらう活動の計画をしてほしい。</p>